

大垣市金生山化石館

# 化石館だより



## コラム

### ナウマンは金生山に登っていた！



ナウマンゾウにその名を遺したエドムント・ナウマンはドイツ人の地質学者です。ナウマンは1854年にマイセンで生まれ、ミュンヘン大学で学位を取得しました。大学ではチッテルやギュンベルといった高名な学者に学び、卒業後はギュンベルが主任をしていたバイエルン鉱山局地質課に勤務しました。ちょうどその時、日本から鉱山学校の教師を招聘したいという話が舞い込み、ギュンベルの勧めもあって1875年（明治8年）来日しました。明治政府による制度変更の都合で鉱山学校は開校されませんでした。翌1876年から東京大学の前身である開成学校が開かれ古生物学の講義を始めます。そして明治14年に東京大学が設立されると、ナウマンは20代前半という若さで東京大学理学部地質学教室の初代教授になったのです。

ナウマンは日本で10年を過ごし、ナウマンゾウの発見以外にも多くの業績を残しています。中でも特筆すべきは、「日本群島の構造と生成」を著して日本列島の地質構造を明らかにしたことです。ナウマンはフォッサマグナによって日本列島が東西に分かれていること、また中央構造線によって西南日本が内帯と中帯、外帯の3つに区分されることを明らかにしました。ナウマンは自身が参加した数多くの公的や私的な旅を通じて全国各地の情報を収集し、日本の地質図を作り上げていったのです。情報が極端に少なかった時代にあって、現代にも通じる考え方を提起し、図版を作成したことは素晴らしいことです。フォッサマグナや中央構造線はナウマンによって発見され名付けられたものなのです。

ナウマンは来日してすぐから旅をしています。1875年11月4日早朝、ナウマンは馬に乗って東京を立ち、高崎から碓氷峠を経て八ヶ岳山麓の平沢部落に辿り着きます。そこで見た大光景がフォッサマグナや日本列島の地質構造について着想する原点になったと言われています。

1877年（明治10年）には学生を伴って近畿へ巡検に出かけています。その目的地は滋賀県の田上山でした。田上山はトパーズや水晶などの鉱物産地として知られていましたのでその採集に向かったようです。ナウマンは料理人を伴い人力車で移動したそうです。彼はかなり身勝手なところがあり、自分だけ先に進んでしまったり、学生たちと口論になったりしたことが伝わっています。また、ナウマンは旅の途中で美濃赤坂にも立ち寄りました。赤坂滞在は、11月21日から23日だったということです。

この話を聞いた時、ナウマンがどこに泊まりどのように過ごしたのかとても気になりました。3日間滞在したとすると中1日は自由に動くことができます。金生山は赤坂宿の目の前にあるのですから登ら

ないはずはないと思います。そもそも赤坂で連泊したのはなぜなのでしょう。大変興味深いことですが、残念ながら詳しいことは分かりませんでした。

ずっと疑問が解けぬままあれこれと資料を探しているうち、佐々木享による「和田維四郎小伝（上）」に巡検の視察地に関する記述があることを見つけました。そこには、「瀬田の石灰岩、田ノ上山の黄玉、赤坂の石灰岩、瀬戸の陶土、宇都谷峠の蛇紋岩を見て、日本の地質についての知見を広めた」と書かれているではありませんか。巡検の目的地は田上山だけでなく複数あったのです。そして赤坂（金生山）の石灰岩も目的地の一つでした。

ナウマンは金生山に登っていたのです。

ナウマンは当日の記録を残していませんが、この日は金生山における最初の学術的な調査が行われた日になります。この日小藤文次郎は学生として参加していました。そして、1898年に「赤坂石灰岩の分層」を著します。これに刺激された脇水鉄五郎は1902年に「美濃国赤坂金生山の石灰岩層」を著し金生山で最初の地質図を作成します。このようにして金生山の学術的な研究が次々と進んでいきました。

ナウマンの師であるギンベルが日本産フズリナの記載をしたのはナウマンが来日する前年です。ナウマンは、日本にフズリナが産することは知っていたとしても、その産地が金生山であるということまでは知り得なかったと思われる。金生山に登ったナウマンは、どんな思いで石灰岩を眺め、濃尾平野の広がりや養老山脈の連なり、伊吹山の姿を眺めたのでしょうか。



当時の面影を示すカルスト



濃尾平野の広がりや養老山脈

(文責：高木洋一)

\*\*\*\*\*

## お知らせ

### 後期企画展

### ぐるぐる巻いた化石たち

10月12日(土)～1月31日(金)

火曜日・祝日の翌日は休館

入館料:100円(高校生以下無料)



問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)  
Email kasekikan@city.ogaki.lg.jp